平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足立　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	○全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。 ○「話すこと・聞くこと」については、全国平均と同等であった。「書くこと」については全国平均を下回るため、書く力の育成を図る必要がある。
	よくできた問題	○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使うこと。
	努力が必要な問題	○文の中で漢字を正しく使ったり、相手や場面に応じて適切に敬語を使ったりすること。

国語B	全体的な傾向や特徴など	○全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。 ○特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」に係る問題に課題が見られる。そのため、「話し慣れる・聞き慣れる」ことや「読書」を推進していく必要がある。
	よくできた問題	○目的に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと。
	努力が必要な問題	○話し合いの参加者として質問の意図を捉えて話し合いをすること。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。

算数A	全体的な傾向や特徴など	○全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。 ○特に「数量や図形についての技能」に関する問題の正答率が低かったため、三角定規や分度器を正しく使ったり、グラフを正しく書いたりする技能を高めていく必要がある。
	よくできた問題	○割合や角の大きさなど、知識を必要とすること。
	努力が必要な問題	○180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めること。

算数B	全体的な傾向や特徴など	○全国平均よりも、下回る。 ○特に「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」に関する問題の正答率が低かったため、問題を解く際にも、図やグラフをつかったり、問題の解き方を説明する活動を多く設定する必要がある。
	よくできた問題	○示された情報を解釈し、条件に合う時間を算出したり、グラフの数値を正しく読んだりすること。
	努力が必要な問題	○小数の除法の意味について理解したり、示された数値を関連付け根拠を明確にして記述したりすること。

理科	全体的な傾向や特徴など	○全国平均よりも、下回る。 ○特に「主として知識に関する問題」についての正答率が低い。その中でも「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」についての正答率が低かったため、観察や実験の際に手順を徹底して、正しい知識・理解を獲得できるようにしていく必要がある。
	よくできた問題	○安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想すること。
	努力が必要な問題	○流水による堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること。 ○実験・観察器具等の適切な操作方法を理解すること。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
○基本的な生活習慣が向上している。朝食の摂取率も増加している。 ○課題を見付け、自分で考えたり、友だちと話し合ったりして解決しようとする児童は増加傾向にある。 ○友だちとの話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ○地域について学習をしたり、地域と関わったりする機会はたいへん多い。また、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心も高い。 ●自己肯定感が低い。 ●規範意識が低く、学校の決まりを守ることができていない。 ●家庭での学習時間は、全国平均と比べると低いが、少しずつ家で計画を立てて学習したり、毎日欠かさず宿題をするようになってきている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○基本的な「読む」「書く」「計算」の力を、どの教科においても着実に伸ばしていく必要がある。そのために、日頃の授業では「根拠を示して説明すること」、チャレンジタイムでは、音読、漢字、計算に計画的に取り組ませ、習熟を図ることで、基礎・基本の力が定着するように努める。
○「わかる授業」づくり5つのポイントを徹底した学習展開を行う。また、望ましい授業のあり方をテーマとした主題研究に全職員で取り組む。さらに「思考の流れ」が分かるノート作りにも取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○「10分×学年＋10分」という学習時間を考えた宿題の出し方を担任が行い、保護者の理解を得、家庭と連携していくことができるようにする。
○宿題の点検はその日のうちに行い、適切な評価を加えてから返す等の習慣化を図る。
○家庭学習が計画的にできるように，高学年には自分で家庭での学習計画を立てて取り組ませ、その成果を確認し、励ましていくようにする。